

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0791300064		
法人名	社会福祉法人 北信福祉会		
事業所名	グループホームやながわ 2階フロア		
所在地	伊達市梁川町字北本町17-3		
自己評価作成日	令和4年2月1日	評価結果市町村受理日	令和4年5月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/07/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県福祉サービス振興会		
所在地	〒960-8253 福島県福島市泉字堀ノ内15番地の3		
訪問調査日	令和4年3月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コロナ前までは利用者が、地域の中で地域の一員として「生き生き」と「笑顔」で「輝いて」穏やかに過ごして頂けるよう積極的に地域交流を図っていた。保育園や幼稚園との交流、小学生の訪問や中学生の福祉ボランティアの受入れ等は恒例となっており、地域のボランティアの方々も多く受入れを行っていた。また、町の文化祭等にも積極的に参加し、地域の人々とのふれあいを大切にしてきたが、昨年度より、新型コロナウイルス感染予防の為、外部の方との接触は行わず、施設内で楽しんで頂ける行事を工夫しながら実施して来た。医療面では、協力医療機関との連携が円滑に行われており、入居者様の健康管理や、緊急時等にも随時対応をしており、適切な医療を受けられる体制となっている。
 法人として、職員の資質向上に努め、昨年度からは内部研修を中心に実施し、全職員が自己研鑽に励んでいる。資格取得に向けても法人として勉強会を定期的に行う等、意欲的に取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)	

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人及び事業所の理念を目の付く場所に掲示出社時や申送り時に唱和し共通認識を図ると共に、毎年理念に基づいて職員間で話し合い、その年の「サービス目標」を立案し、日々の実践に努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症予防の為、地域の皆様との交流は一切行えなかったが、毎年地元保育園と合同で開催していた小正月の行事については、飾りを利用者の皆様で作成し、材料と共に保育園へ届け、園児達で自宅用の団子刺しを作成して頂いたりと出来る限りの交流を行った。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症予防の為、地域の皆様との交流は一切図れなかった。通常は、見学や慰問、子供達との交流や中学生の福祉体験等を通し、事業所や認知症への理解を深めて頂けるよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、奇数月に定期的開催しており、事業所の状況・行事・外部評価・リスクマネジメント等を詳細に報告をし、委員の皆様から様々な提案や助言を頂き、事業所運営やサービス向上に活かしている。一昨年よりコロナの関係で書面開催となったことが数回ある。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	行政の担当者からは介護保険についての情報や研修会の開催等が配信され詳細等は質問を通して助言を頂いたりしている。また、事故が起ってしまった際等、適切に報告を行い、アドバイスを頂く等関係を築いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内に身体拘束廃止宣言を掲示し面会者等に周知している。また、身体拘束廃止マニュアルや内部研修を通し意識の向上を図り、防止に努めている。言葉による抑制についても接遇委員会を設置し、毎月チェック表を付ける等し、職員の意識向上に努め、共通認識を持てるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待についての内部研修を行い、虐待の事例や防止、対応の仕方、報告義務について学び、防止に努めている。また、外部研修参加時には、研修で学んだことを他職員にフィードバックして共通認識を持てるようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活支援事業や成年後見制度の理解を深める為に研修を行い相談があれば支援出来るようにしている。現在成年後見制度を利用されている利用者様を1名受入れしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に重要事項説明書や契約書の内容等について説明している。不明な点等についても回答し、その上で契約を締結し、介護報酬改定等については、家族会開催時や文書送付にて説明し同意書を交わしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や利用者様の状況報告時等、日常的にご家族様のご要望を把握し、全体会や各フロア会議で検討を図り、事業所運営や利用者様のサービスの向上に活かしている。苦情に関しても窓口を設置し第三者委員の氏名や連絡先を掲示すると共に玄関ホールにも要望箱を設置している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	フロア会議や全体会にてサービスの内容や運営に関する意見や提案を上げてもらい、その会議の中で検討し決定したり、議題によっては法人に上申し事業所運営に反映させている。また、半期の個人目標の設定や評価の際の個人面談でも意見や提案を聴く機会を設けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	正社員、臨時職員共に6ヶ月に1回自己目標を設置し、やりがいや育成に助言を行い、賞与や昇格、昇給を行っている。また、疾病や妊娠、家庭等の事情を配慮して勤務時間や夜勤の調節を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	一昨年より、コロナの感染防止の為、法人全体の研修会も各事業所でのネット研修に切り替えている。事業所の内部研修もネット研修を利用し、職員一人一人のレベルアップに努めた。また、資格取得の為の方部研修につきついても、参加する機会を設けた。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県認知症グループホーム協議会に入会しているが、一昨年より管理者会議や集合研修は開催を見合わせている状態だった為、電話等にて他事業所との情報交換や連携を図った。日常業務においても、他施設や居宅ケアマネージャーとの情報交換を行っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	施設利用前にご本人様、ご家族様からの要望等を聞き取りし、得た情報を全職員で共有する。また、コミュニケーションを積極的に図り、入居後の不安を出来る限り少なくし、信頼関係を築くようにすることで入居後安心して過ごしていけるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にご家族様の意見や考えを聞き取りを行い、情報交換を行っている。緊急時にはご家族様に電話し報告している。毎月送付の生き活きだよりや面会時には、職員から積極的に声かけをしている。信頼関係を築くと共にサービス向上につなげている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様やご家族様からの意見や要望、意向等を伺い、その情報を基にケアプランを作成している。利用者様やご家族様のその時の思い、今後の生活で必要としている支援を状況により汲み取ったケアを行っている。その都度情報交換をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	在宅での生活の延長として、洗濯たたみや食器拭き、お花の水くれ、掃除等を職員と一緒に寄り添いながら行っていることで信頼関係を向上している。本人のやりがいや役割を持って行っている。生き生きと過ごせるよう援助を行うと共に支え合う関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月利用者様の状況や日々のご様子をお伝えする生き活きだよりや3ヶ月に1回発行の広報誌を発送、施設での様子をお伝えする。感染症対策のため、面会やご家族様の行事参加は現在は参加いただいていない。ご家族様に相談する際、特変時等、必要に応じ電話対応し、連携を密に図っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今年度に関しては、感染症予防の観点から面会を制限させて頂いた為、今までのようにお茶を飲みながらゆっくりと談笑して頂ける状況では無かった。外出も控えている状況であったが、面会の際は、その関係性が少しでも長く継続できるようにしていた。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲が良い利用者様同士を隣同士にせず一人が孤立しないように席を決めている。行事の参加や生活レクを通して利用者様同士が楽しんで自然に話せるようにしている。職員が間に入り支援することで、利用者様同士がいつも笑顔で楽しく孤立せずに関わることのできる関係性作りを努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所も含め、入院、在宅、他施設への移動等の場合には、家族からの連絡や施設から連絡し現状を聞き、相談、支援に応じるようにしている。また、居宅支援や施設介助がスムーズに行えるようサマリー等の情報提供や紹介を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	1人1人に担当職員を配置しご本人様が話しやすい環境を作る。日々のコミュニケーションを通して表情や声のトーンを確認すると共に本人の思いを確認している。意思疎通が困難な方については、ご家族様からの情報やお話等にて把握するよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様、ご家族様より今までの在宅での生活や暮らしてきた環境を聞きながら、在宅生活の継続に繋げている。また実態調査表、アセスメントを行い確認している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中で変化や体調不良等の気付き、浮腫、内出血、目視での変化や確実な気付きを職員間で伝え、周知、把握すると共に、夜間帯の様子や食事・水分・排泄等を確認し現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様の様子やコミュニケーションを通して、またご家族様からも面会時等に情報のやり取りを行い、現在の利用者様の状態に合った介護計画を作成している。それらの意向を踏まえ、介護計画に基づいた記録をもとに会議時、検討し見直しに繋げ、変化があった際には随時アセスメントを実施し、計画の変更も行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	各利用者様の日々の様子、健康状態、ケアを行った内容を介護記録に記入している。状態の変化とその都度の利用者様の気付き等は、申し送りやミーティングを通して職員間で情報共有している。介護計画の見直しや職員間の統一したケアに活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様やご家族様の日々の状態の変化、心の変化等に目を向け観察する。利用者様のその時に合ったケアを行うようにしている。必要に応じてご家族様にも連絡、報告し、その都度ご家族様の意見を把握し了承を得ることで安心感を持って頂けるようにしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今年度も感染症予防の観点から地域の方々との交流を図ることを控えた。町内の訪問美容を感染状況を見ながら利用したり、町内の食堂からの出前を利用し利用者様方楽しんでもらった。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望により内科、整形、歯科の定期往診(週1回)を受け入れているため、主治医との連携により適切な治療を受けている。他の医療機関を利用する際も、状況報告書を作成し情報を共有している。往診とは別にかかりつけ医の受診については基本家族同伴だが、急変時等については職員が同行し対応することもある。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同法人のデイサービスに兼務している看護師が、週1回の健康観察を行い施設へ来ている。医療連携体制を取ることで、状況に応じた助言や健康管理、急変対応往診医への連絡事項等の指示や連携が速やかに行われた。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際にはサマリー等を準備し情報提供に加え、今年度も訪問を控えていた為、電話にて補足説明等に努めた。また、ご家族様との状況確認等の連絡をとるようにし、早期退院や退院後の受入れについて速やかに対応できるよう努めた。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所契約時に重度化や終末期についての指針を説明、意向の確認を行っている。その後、重度化や終末期を実際に迎えた際に再度説明、最終的なご家族様の意向を確認している。ご本人様、医師、訪問看護師等との連携を図り、方針を共有しながら、ご家族様の希望に沿った対応をし、ターミナルケアに取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変・事故対応マニュアルを作成している。各職員マニュアルに目を通し把握するように周知している。また、急変時の対応の研修も定期的に行うことにより各職員が対応できるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災マニュアルを作成、地域の災害協力体制を確立している。今年度も毎月の避難訓練は実施しているが、外部との接触がある消防署立会いの総合防災訓練は実施を見合わせた。また、年1回同法人のハッピー愛ランドほばらと共同での実際の水害を想定した災害避難訓練も行う予定ではあったが、感染症予防の為今年度は実施できていない。避難方法や確認等協力体制を敷いている。懐中電灯、水、缶詰等の備蓄も備えている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々、笑顔を絶やさず相手に不快感を与えないよう、気持ち良く心地の良い、優しい言葉遣いを心掛けている。各フロアで対応できるよう接遇委員会より目標が設定されており、毎月の全体会やフロア会議で各職員が評価・反省することで職員間で常に意識し心掛けている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員主観の声掛けではなく、利用者様がどうしたいのか？を聞き取り、利用者様の思いや意思意向を尊重できるような声かけをしている。行事や食事でのアンケートを用いて、ご自分の意見を自由に言える、意思を選択できる自己決定に繋がる場も設けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	各利用者様の生活歴や仕事歴等、その方が今まで携わってきたことを聞き取り、現在の残存能力を活かせるよう、希望に沿った生活レク等を支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時や入浴時の着替え等ご本人に伺いながら基本洋服を選んで頂くようにしている。洗顔や整髪等の整容を介助を行いながら支援し、今年度は感染症の状況により、短時間で対応できる散髪のみとし訪問理美容を利用し髪の毛を整えて頂き、気持ちよく過ごして頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	食事の盛付けやピーラーでの皮むき等ができる範囲で手伝って頂いている。食事前には口腔体操を行い、誤嚥予防しスムーズに摂取できるよう支援している。毎週のおやつ作り、鍋の日、刺身の日、おはぎ作り等、季節に沿って食が楽しめるよう支援している。今年度も外食については控えた。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分チェック表に、その日の摂取量を記載し、把握している。その表を基に、またその時の体調等状態に合った食事形態、トロミや栄養補助食品の必要性等をフロア会議で意見交換し検討、又、住診医や看護師と連携を取りながら状況に合わせた支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケア、就寝前の義歯洗浄を欠かさず行っている。自力でできる方は見守り、できない方は介助にて行い、口腔ティッシュや口腔スポンジも使用している。いつまでもご自分の歯で食を楽しめるよう支援、希望者は定期的に歯科受診も実施、治療、メンテナンスを行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を確認しながら、その方に合ったトイレ誘導や声かけを行っている。ご本人からの訴えや行動が見られた際にはすぐに対応できるよう、注意深く様子観察している。自力で排泄が可能で下衣の上げ下ろしができる方には、テープ止めのパットを使用、自立した支援と羞恥心面でも配慮している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	起床時や食事、おやつ時に少しでも多く水分を摂取して頂くようにしている。毎週2回、牛乳・乳酸飲料の日を設け、自然排便に繋げるようにしている。便秘が酷い時は、腹部マッサージや下肢の運動に加え、往診医や看護師に相談、下剤等処方、調整して頂いている。また筋力低下も考慮し、ラジオ体操も行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日入浴剤を使用、香、色を楽しみ、リラックスして頂きながら、週2回の入浴を行っている。季節に合わせてゆず湯の日等も設け、季節を感じて頂いている。拒否がある場合は、時間をおいて声かけ、入浴日を変更する等して対応、それぞれが気持ちよく入浴できるよう支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各利用者様の体力や体調、希望に合わせて休息を促している。冷暖房による温度調整も行い、快適に休めるよう配慮している。利用者様が慣れ親しんだ寝具等を使用頂き、少しでも安眠できるよう環境を整えている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報を個々のケースにファイリング、変更や追加があった際には、注意点(副作用)や変更理由等申し送りにて職員間に周知徹底、情報共有し、薬に対する理解・意識付け、誤薬にも努めている。薬セット時、服薬介助時共に誤薬防止のため、必ず職員2名でのダブルチェックを行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれの生活歴やできる事を把握し、残存能力を活かしながら、食器拭き、洗濯たたみ、新聞折り、塗り絵や計算ドリル、畑仕事等行って頂いている。その時のご本人様の希望、要望、職員の声掛けにより気分転換も図りながら、日々の生活に役割を持って頂き張りのある生活ができるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	感染症予防の観点から、基本的には外出行事は全て実施出来なかった。施設敷地内の庭や畑、ベランダやバルコニーで季節の花を育て楽しむことで、少しでも季節を感じて頂けるよう支援した。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いは施設で管理している。コロナ禍になる前は、居室担当職員と一緒に買い物に出掛けたりしていたが、現在は、利用者様が欲しい物や不足な物がある場合は、ご家族様に依頼、または了承を得、職員が代理購入することで、お小遣いを自由に使えるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人様の希望により電話のやり取りが自由にできるよう支援している。ご家族様や知人からの電話を取り次ぎ、自由にお話して頂いている。年末には居室担当と年賀状を作成し、新年の挨拶としてご家族様に送付している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食事時の食器等、できるだけご自宅で使用されていた馴染みのある物を持参、使用して頂いている。レク活動で四季折々の花で作成したフラワーアレンジメント等を各居室に飾り、季節を感じて頂いている。ホールにも七夕笹飾り、クリスマスツリー、団子刺し等を飾り、季節を感じる空間作りにも努めている。又、その日の気温や気候に合わせた空調管理を行い心地よく過ごして頂けるよう配慮している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った方々との談笑はもちろんのこと、テレビを見たり、音楽を楽しんだりと思ひ思いに過ごせるよう座席の配慮をしている。フロア入口にテーブル・椅子を配置することで新聞や本を読んだり、バルコニーの花を眺めたり等日向ぼっこができるよう工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている	入居される際、ご自宅で使用されていた馴染みのある衣類や布団類、写真、家具等を持参して頂くことにより、これまでの自宅での生活と変化、違和感が軽減され居心地よく過ごして頂けるよう工夫している。日々の掃除や衣類の整理整頓も職員と共に行う事で、安心してゆったりと過ごすことができるよう環境整備にも配慮している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室のドアへその方の家として名前のボードを設置、トイレも迷わず行けるようプレートを設置している。廊下、トイレには手すりがあり、安心して歩行できるよう障害物を置かないようにしている。必要に応じてベッド柵にL字バーを使用し、残存機能を失わないよう支援している。		